

「血と涙のメッセージ」

～パウロが涙を持って伝えたかったこと～

「というのは、今までも、しばしば語ってきたことですし、今また、涙ながらに訴えたいのですが、クリスチャンとして歩みながら、実はキリストの十字架に敵対している者が多くいるからです。」ピリピ3章18節(リビングバイブル)

パウロがこれから命を懸けてローマへの旅をするために、残された神の教会の群れを導くり、ダーたちに対して語ったメッセージが今日の内容です。

もう、自分はいなくなる、今度は自分たちで群れを建て上げていくのですよ。と言わんばかりの内容です。ちょうどそれと同じようなことが、お隣の中国でなされました。共産主義が台頭し、権力をふるうようになってから、公に宣教師たちが国外追放となり、残された中国人クリスチャンたちが自分たちで群れを導かなければならなくなっていました。それまでは、目に見える宣教師を頼って信仰を守ってきた彼らでしたが、今度は彼ら自身が直接主なる神様に祈るようになって信仰が確立していきました。

日本でもキリシタンの迫害の歴史の中で、同じようなことが起こりました。試練は辛いことですが、そのことで、自分自身の信仰の土台が造られるようになります。

パウロは多くのメッセージを語って来たでしょうが、使徒行伝の記者であるルカはそのすべては記しませんでした。しかし、今回のエペソの長老たちに語ったパウロのメッセージは書き記しました。よほど大切な内容が書かれているからなのでしょう。その中でパウロは、自分のメッセージは、①「神に対する悔い改め」と②「主イエスに対する信仰」について語ってきたと振り返っています。そして、教会はキリストの尊い血によって、命によって建て上げられていることを決して忘れてはいけないことを語りました。そして、その語るごとに、彼の目には涙があふれていたと語っています。そして、このキリストの命ほどの重みのある教会＝神の国を建て上げていくことは、自分たちの力や努力によってできることではなく、主の御言葉によって成し遂げられるのだと確信していました。だからこそ、この恵みの言葉に自らを捧げ尽くしていくこと、与え続けていくことこそ重要なのであると信仰の心意気をはっきりと宣言しています。

私たちが何のために生きるのか？どのように生きるのか？はすべて主のみことばに裏付けられているということではないでしょうか。

パウロはこれからも御霊に導かれて進んでいきます。しかし、エペソの長老たちも、残された者たちも、どんなことがあっても、パウロと同様に聖霊の導きのままに生かされているということが重要であると感じます。今置かれたところで喜び一杯に咲き誇っていくことを主は願っておられるのではないのでしょうか。主は今あなたに導かれていることは何でしょうか？それを一緒に祈り求めていきましょう！私たちの人生の目的のために主は命をささげてくださいました。